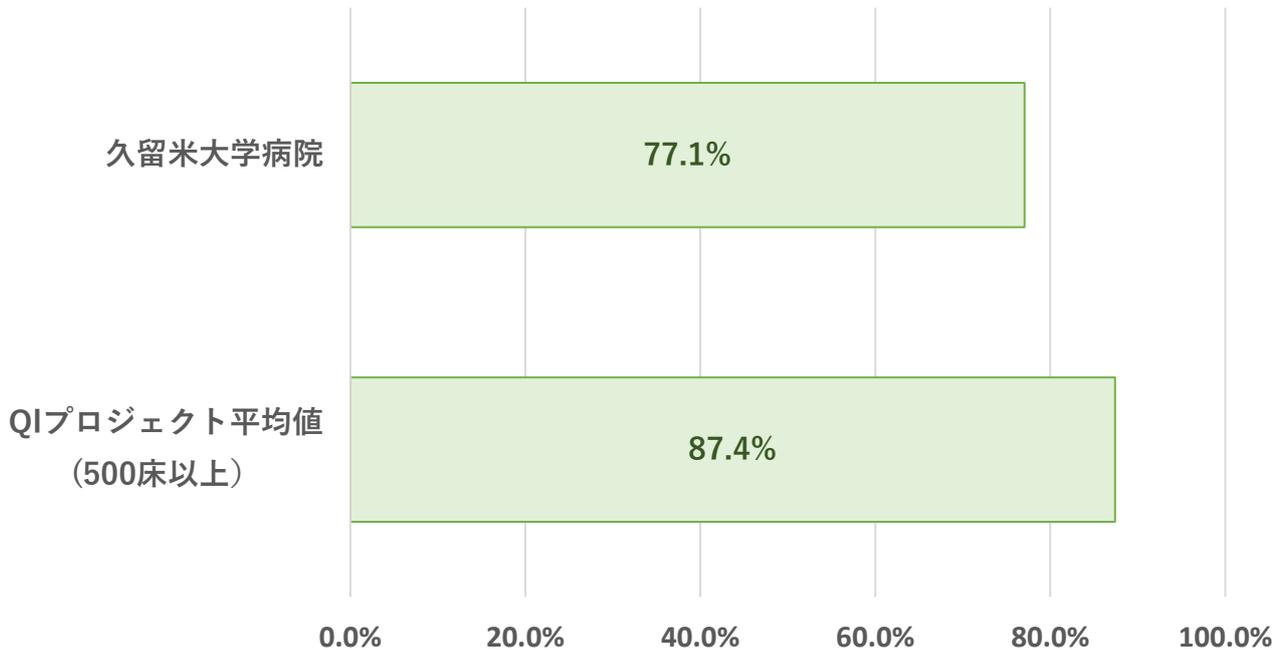


シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤投与率

2023年度



指標の説明

本指標は、シスプラチンなどの強力な化学療法薬による副作用である激しい吐き気や嘔吐を予防するために、制吐剤がどれだけ適切に使用されているかを示します。

ここでは、日本病院会のQ Iプロジェクトの平均値（回答数=101）と比較しています。

定義

分母：分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数

分子：18歳以上の症例で、入院にてシスプラチンを含む化学療法を受けた、実施日数

考察

本指標はより高い方が望ましいとされています。当院のシスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤投与率は、Q Iプロジェクトの平均値87.4%より低い77.1%となりました。